

③効果的な情報発信の推進



大気や水などの環境の分野は、一般的になじみのない用語が使われることも少なくないため、分かりやすさを意識するとともに、情報の受け取り手を考慮して、リーフレット、ホームページ、SNS など、様々な媒体を活用した情報発信を行うとともに、身近な地域環境への関心を高めてもらえるよう、地域ごとの取組や環境データの紹介及び公害の歴史や優れた環境の取組などの展示等による情報発信を推進しています。

また、次世代自動車や自転車の活用などを通じた、地球にやさしい交通環境に関する普及啓発など、市民の環境配慮行動の促進につながる情報発信等に係る取組も推進しています。

Ⅱ-1-③の具体的取組及び実績は次のとおりです。

施策の方向性 基本施策	具体的取組	概要	令和6(2024)年度実績	目標との関係				地域		
				大気	水	化学	市民	南部	中部	北部
Ⅱ 安心して快適な環境を共に創る										
Ⅱ-1 環境配慮意識の向上										
③ 効果的な情報発信の推進										
	1 多様な世代に合わせた情報発信	大気・水環境分野についての市民実感の向上をめざして、効果的な情報発信を推進します。また、環境総合研究所の研究成果についてSNS、インターネットなどを通じて市民、事業者等へ情報を発信し、環境問題への関心や理解、環境配慮意識の向上につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市制100周年事業として「川崎の発展と環境の歴史を振り返り未来を考える企画展」を市内4か所で実施したほか、小学校等での出前授業において、公害の歴史環境の取組等について講義を行いました。</li> <li>○市政だより等の紙媒体により、大気・水環境分野等のイベント情報について情報発信を行いました。</li> <li>○市内の水辺情報や環境イベント情報等について、環境総合研究所公式X(旧Twitter)等により発信を行いました。</li> <li>○環境セミナーについて①地球温暖化時代の「みどり」と私たちの暮らし」(令和6年10月25日、当日参加者85名)、②かわさきの大気と水を考える(同年11月26日、当日参加者44名)、③「産学公民連携共同研究事業研究成果報告会」(令和7年3月12日、当日参加者50名)をテーマに開催しました。</li> <li>○年間を通じて川崎市環境総合研究所アカウントにより、研究所の業務紹介や熱中症予防啓発、各種環境関連イベント等の情報を配信しました。(令和6年度:128回配信)</li> <li>○環境技術情報ポータルサイトを一部改修して内容を拡充するとともに、X(旧Twitter)等と連携させながらポータルサイトを通じて、国際貢献の取組や川崎国際エコビジネスフォーラム等の情報発信を実施しました。</li> </ul>	○	○	○	○	○	○	○
	2 地域ごとの取組や環境データの情報発信	地域の状況や取組を容易に把握できるよう、地域ごとの取組や環境データの公表・提供を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本庁舎のデジタルサイネージやホームページで測定局ごとのデータを提供しました。</li> <li>●○主な河川の水質測定結果の経年推移は地点ごと、水域ごとに取りまとめ、生物調査結果は地点ごとに取りまとめ公表しました。</li> <li>●○大気や水質の常時監視結果、ダイオキシン類、酸性雨等の測定結果や水質事故対応等の環境情報についてホームページで公表しました。また、利用しやすいデータ形式として、エクセルファイル(XLSX形式)で提供しました。</li> </ul>	○	○	○	○	○	○	○
	3 情報発信等による次世代自動車の普及促進	自動車に関する地球温暖化対策を推進するため、情報発信等による次世代自動車の普及に向けた取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●適正に導入補助制度を運用し、4台に補助を実施しました。</li> <li>●民間企業と連携したEVカーシェアリング実証実験の拠点を1箇所増設しました。</li> <li>●○市内EVトラック販売業者と連携した一定期間のEVトラックの試乗について、市内事業者へ取組の周知を行いました。</li> <li>●車両導入・入替予定部署と次世代自動車導入の調整を行い、導入を促進しました(公用乗用車の電動化率:60.7%)。また、次世代自動車の中でもEVの導入を進めるため、公共施設(6施設)に公用車用のEV充電設備を設置しました。</li> </ul>	○			○	○	○	○
	4 自転車の活用に向けた取組の推進	安全・快適に利用できる移動環境の充実に向けたシェアサイクルの推進に加え、環境負荷の低減等にも寄与する身近な自転車の活用の取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民間用地に加え、公園などの公共用地を活用しシェアサイクルポートの設置拡充を行い、一層の普及促進に向けた取組を進めました。</li> <li>●自転車利用を促す広報啓発としてのチラシの配布などを、5月の自転車マナーアップキャンペーンや10月の放置自転車クリーンキャンペーンで実施しました。また、10月の宮前区民祭に出展して、環境負荷の低減や観光利用などの啓発活動を実施しました。</li> </ul>	○					○	○
	5 市民・事業者が利用しやすいデータの構築・提供	環境調査結果等のデータをCSV等の利用しやすい形で提供(オープンデータ化)します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●○主な河川の水質測定結果の経年推移は地点ごと、水域ごとに取りまとめ公表しました。</li> <li>●○大気や水質の常時監視結果、ダイオキシン類、酸性雨等の測定結果や水質事故対応等の環境情報についてホームページで公表しました。また、利用しやすいデータ形式として、エクセルファイル(XLSX形式)で提供しました。</li> <li>●大気常時監視の1時間値データを市ホームページでCSV形式で提供しました。</li> </ul>	○	○	○	○	○	○	○
	6 生活排水対策等の推進<水質>	生活排水による水質汚濁を防止するため、市民、事業者に普及啓発を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●○生活排水対策リーフレット「かわさきの川・海をもっとすてきに!」を活用し、市民、事業者へ水環境に関する普及啓発を行いました。</li> </ul>		○		○	○	○	○

○基本施策Ⅱ-1-③効果的な情報発信の推進○

施策の方向性 基本施策	具体的取組	概要	令和6(2024)年度実績	目標との関係				地域		
				大気	水	化学	市民	南部	中部	北部
Ⅱ 安心して快適な環境を共に創る										
Ⅱ-1 環境配慮意識の向上										
③ 効果的な情報発信の推進										
	7 平常時の河川流量維持に向けた普及啓発 <水量>	平常時の河川流量を維持するため、市民、事業者等に雨水浸透ます設置の普及啓発を図ります。	●雨水浸透の取組の推進については、学校に設置した雨水浸透ますの適切な維持管理や普及啓発を実施したほか、雨水浸透について、ホームページで市民等へ普及啓発しました。	○		○				○
	8 水洗化率向上に向けた取組 <水質>	公共下水道への接続に向けた指導を行い、水洗化率の向上を図ります。	●ウェブсайт、パンフレット等による広報を行い、水洗化されていない家屋の解消を図りました。 ●水洗便所等設備資金助成金:6件 私道共同排水設備敷設・修繕助成金:1件 川崎市水洗便所改造等資金融資あっせん:0件 ●戸別訪問による下水道普及促進事業に関する説明・勧奨を601件実施しました。		○			○	○	○
	9 川崎港の魅力発信の推進 <水辺>	港の果たす役割を市民に理解してもらうため、関係団体と連携し、川崎みなと祭りなど各種イベントを実施し、川崎港の振興を図ります。	●第51回川崎みなと祭りを川崎市市制100周年記念回として例年のコンテンツに加えて市制100周年を記念したドローンショー及び一斉吹鳴を実施しました。また、公益財団法人日本財団の「海と日本プロジェクト」の助成金を活用し、GIGAスクール端末向け港湾デジタル副読本を活用した小学生の川崎港見学ツアーを実施し、将来世代への情報発信や体験学習の取組を行いました。さらに、ビーチバレー川崎市長杯を有観客かつYouTubeでのLIVE配信の方式で開催しました。 ●川崎マリエン、東扇島東公園等の施設の利用促進に向けて、HPなどの媒体を活用した広報を実施しました。また、ビーチバレー川崎市長杯のYouTubeでのLIVE配信やデジタルサイネージ等において、川崎港や川崎マリエンの魅力を広くPRしました。		○		○	○	○	○
	10 農地の保全及び活用の推進 <水量>	多面的な機能を持つ農地の保全を図るほか、市民が農業へ親しみ理解を深めるため、農業情報の発信等を行い、農地の活用を進めます。	●生産緑地の指定については、4,330㎡を新規指定しました。利用権設定等の集約面積については、13.2haとなりました。 ●市民防災農地の登録については、JAセレサ川崎と連携し、19箇所を登録しました。 ●里地里山等利活用実践活動による人材育成を46回開催しました。 ●グリーンツーリズムのホームページのイベント情報を更新するなど、適切な情報発信に努めました。 ●大型農産物直売所「セレサモス」と連携して、農業情報センターを拠点とした農産物の収穫体験などのイベントを目標どおり67回開催し、都市農業の理解促進に努めました。		○				○	○

1 多様な世代に合わせた情報発信（Ⅱ-1-③-1）

環境情報の提供については、環境の状況を的確に把握し、公害防止のために行った必要な監視等について、調査結果等がまとまり次第公表しています。

令和6(2024)年度は、市民、事業者等への情報提供として、次のような取組を実施しています。

(1) インターネットホームページ

大気、水質、土壌汚染、騒音・振動、地盤沈下等の分野ごとの各種取組や関連情報について、ホームページに掲載し必要に応じて随時更新しています。

ア 川崎市：地域環境対策

<主なコンテンツ>

コンテンツ名	主な掲載内容
「川崎市の大気」	窒素酸化物等の大気汚染状況や工場等からの排出状況、アスベストや酸性雨等の調査結果他
「水環境情報」	河川・海域の水質調査結果、水のごとの基礎知識、川の生きもの他
「騒音・振動」	騒音・振動の対策、音環境の調査結果、関連条例他
「化学物質関連情報」	PRTR 関連情報、環境・リスクコミュニケーション等の化学物質対策他
「地盤情報」	市の地盤沈下、市内の標高、地下水の揚水に関する規制他
「川崎市の土壌汚染対策」	土壌汚染対策法・土壌汚染対策に係る市の条例、土壌汚染の調査・対策に関する手続、土壌汚染対策処理業他
「交通環境対策関連情報」	次世代自動車の普及、エコ運搬制度、エコドライブの普及、交通騒音振動対策、ディーゼル車規制他
「アスベスト」	本市の取組、大気環境濃度の測定結果、アスベスト相談窓口一覧他

「川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例」	川崎市公害防止等生活環境の保全に関する条例及び施行規則、指針等一覧、届出様式他
-------------------------	---

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

川崎 環境対策

イ 川崎市：環境総合研究所

<主なコンテンツ>

コンテンツ名	主な掲載内容
「環境総合研究所の概要」	環境総合研究所の概要、組織
「調査・研究」	大気環境調査・研究、水環境調査・研究、化学物質調査・研究、放射線調査・研究、都市環境調査・研究
「大気の常時監視」	大気常時監視システム、大気環境測定データ
「環境総合研究所アーカイブスペース」	環境総合研究所アーカイブスペースの所在地、開設日時、展示内容
「環境学習・イベント・セミナー」	環境総合研究所主催のイベント・セミナー、研究所内の見学受付、環境学習用教材の貸出し
「資料」	環境総合研究所（旧公害研究所）年報、川崎市の大気環境、環境放射能調査報告書、その他パンフレット等

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-10-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

川崎 環境総合研究所

ウ 環境技術情報ポータルサイト

<主なコンテンツ>

「環境技術情報」、「国際貢献・連携」、「産学公民共同研究」、「刊行物・資料」、「フォーラム・セミナー」

<https://eri-kawasaki.jp/>

川崎市 環境技術情報

エ 川崎環境ポータルサイト

<主なコンテンツ>

「イベント・お知らせ」、「施設情報」、「資料室」、「環境動画アーカイブ」、「関連リンク紹介」、「月刊 環境情報」

<https://www.portal-env.city.kawasaki.jp/>

川崎環境ポータルサイト

(2) SNS

本市の環境関連のイベント情報や取組を随時発信しています。

川崎市環境総合研究所 公式 X (旧 Twitter) @kawasaki\_keril

川崎市環境総合研究所チャンネル (YouTube)

(3) 公害の歴史の学習施設やコンテンツ

本市が公害の克服に向けて進めてきた取組の歴史や現在の取組について、次の施設やホームページで公開しています。

ア 川崎市環境総合研究所 アーカイブスペース

「川崎市環境総合研究所アーカイブスペース～川崎から世界へ～未来へはばたく環境技術」では、本市が公害の克服に向けて進めてきた取組の歴史のほか、優れた環境技術や取組などを映像や展示物により紹介しています。

【場所】川崎市川崎区殿町3丁目25番13号 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）1階  
<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-10-9-0-0-0-0-0-0-0.html>

川崎市 環境 アーカイブ

検索

イ 川崎市 かわさきエコ暮らし未来館

「かわさきエコ暮らし未来館」は、地球温暖化、再生可能エネルギー、資源循環の3つのテーマを中心に、環境を守るためにはどうしたらよいかを具体的に体験しながら楽しく学んでいただける施設です。2階展示スペースにある「川崎の暮らし環境100年のアルバム」では、本市の100年の環境の歴史と川崎の環境について紹介しています。

【場所】川崎市川崎区浮島町509番-1 浮島処理センター内  
<https://eco-miraikan.jp/index.html>

川崎市 エコ暮らし未来館

検索

ウ 川崎市：川崎市の公害の歴史を学ぶ

公害に関する情報収集と整理を行い、公害の歴史を伝えるとともに、環境の大切さについても広く情報発信することを目的として公開しているインターネットホームページです。

<https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000101969.html>

川崎市 公害の歴史

検索

エ 川崎市デジタルアーカイブかわさき環境100年史

市制100周年を機に、環境の歴史を振り返り川崎の環境に対する誇り（環境シビックプライド）を育むとともに、市民一人ひとりが環境課題を自分事として捉え、脱炭素社会のさらなる実現に向けたきっかけづくりとしていくため、ウェブサイト「川崎市デジタルアーカイブ かわさき環境100年史」を令和6年11月20日に公開しました。

本アーカイブでは、環境総合研究所や市民ミュージアム所蔵の写真、環境関連の過去の市政だよりのスクラップ記事などをデジタル化し掲載しています。

<https://www.digital-archive-env.city.kawasaki.jp/>

川崎市デジタルアーカイブ

検索

オ 川崎市の公害の現状や対策に関する主な公開資料

「川崎市の大気・水環境」

<https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000164589.html>

「川崎市の大気」

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-4-0-0-0-0-0-0-0.html>

「大気環境情報」

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-9-5-3-0-0-0-0-0-0.html>

「水環境データ集」

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-5-13-0-0-0-0-0-0.html>

「川崎市環境総合研究所年報」

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-10-11-9-0-0-0-0-0-0.html>

「川崎市環境基本計画」

<https://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/54-5-6-1-0-0-0-0-0-0.html>

## 2 情報発信等による次世代自動車の普及促進（Ⅱ-1-③-3）

自動車に関する地球温暖化対策を推進するため、情報発信等による次世代自動車の普及に向けた取組を推進しています。

### (1) 自動車の保有台数

#### ア 市内自動車保有台数

令和6(2024)年度末における市内の自動車保有台数は47.2万台で、車種構成は、乗用車が29.1万台で全体の約62%を占め、次いで軽四輪自動車が8.6万台(約18%)でした。

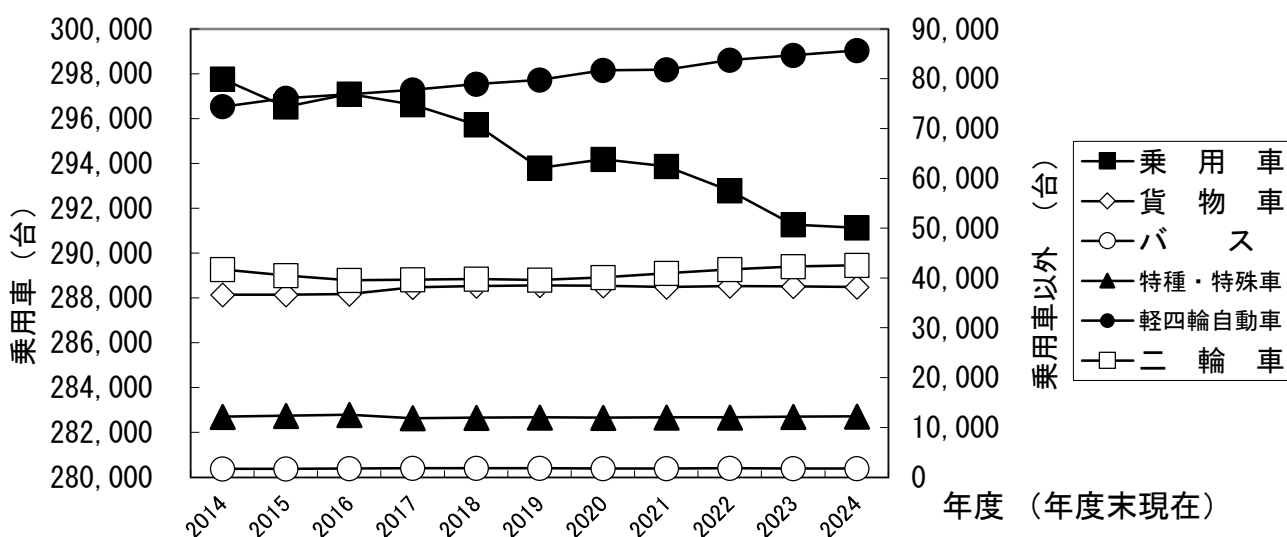
市内保有台数の合計について、10年前の平成26(2014)年度末と比較すると、増加傾向でした。車種別で見ると、貨物車及び軽四輪自動車では増加傾向にあり、乗用車については減少傾向にあります。

#### 市内における車種別自動車保有台数

(単位：台)

年度	乗用車	貨物車	バス	特種・特殊車	軽四輪自動車	二輪車	合計
2014	297,773	36,671	1,704	12,139	74,396	41,703	464,386
2024	291,128	38,157	1,770	12,229	85,674	42,569	471,527

(国土交通省：自動車保有車両数から川崎市集計)



(国土交通省：自動車保有車両数から川崎市集計)

#### 市内車種別自動車保有台数経年推移

イ 市内におけるディーゼル車保有台数

市内におけるディーゼル車保有台数（ディーゼル車運行規制対象外の乗用車を除く。）は、令和6（2024）年度末は、令和5（2023）年度末と比較して約0.4%減少しています。また、令和元（2019）年度末と比較して、貨物車で保有台数が増加しています。

**市内におけるディーゼル車保有台数（乗用車を除く。）**

（単位：台）

年度	貨物車	バス	特種・特殊車	合計	前年度比較
2019	20,396	1,594	8,399	30,389	0.9%
2020	20,417	1,538	8,320	30,275	-0.4%
2021	20,263	1,486	8,353	30,102	-0.6%
2022	20,394	1,558	8,311	30,263	0.5%
2023	20,535	1,502	8,397	30,434	0.6%
2024	20,435	1,497	8,391	30,323	-0.4%
2019・2024年度比較	0.2%	-6.1%	-0.1%	-0.2%	

（国土交通省：自動車保有車両数から川崎市集計）

ウ 市内の低公害車普及台数

九都県市首脳会議環境問題対策委員会大気保全専門部会（以下「九都県市大気保全専門部会」といいます。）では、低公害車の普及拡大を図るために「九都県市低公害車指定指針（平成8（1996）年3月制定）」に基づき指定を行っています。九都県市指定低公害車は、燃料電池自動車、電気自動車、CNG車、プラグインハイブリッド車、ハイブリッド車や低公害・低燃費なガソリン車、ディーゼル車を指定しています。

**市内における九都県市指定低公害車保有状況（二輪車を除く。）**

（単位：台）

年度	自動車保有台数に占める 九都県市指定低公害車の割合	九都県市指定低公害車台数	自動車保有台数
2019	70.5%	296,918	421,346
2020	70.1%	297,009	423,405
2021	68.1%	288,597	423,890
2022	65.7%	278,588	423,959
2023	64.8%	275,805	425,593

（九都県市大気保全専門部会調べ）

エ 低公害車の普及

地域の環境改善のためには、窒素酸化物や粒子状物質の排出量の多い車両を、排出量より少ない低公害な車両へ転換させることが有効です。本市はこれまで公用車に燃料電池自動車や電気自動車など、低公害車の率先導入を図るとともに、民間事業者への低公害車の導入促進に努めています。

(ア) 公用車の低公害車調達

公用車の調達に当たっては、平成14（2002）年度以降「川崎市グリーン購入推進方針」に

車両導入の基準を定め、次世代自動車や九都県市指定低公害車を優先して導入しています。令和7(2025)年3月末現在、総台数1,612台のうち1,380台が九都県市指定低公害車です。

### 川崎市公用車の台数と九都県市指定低公害車台数経年推移

(単位：台)

	2021年度末		2022年度末		2023年度末		2024年度末	
	総台数	低公害車	総台数	低公害車	総台数	低公害車	総台数	低公害車
燃料電池	3	3	3	3	3	3	4	4
電気	10	10	14	14	18	18	35	31
プラグインハイブリッド	4	4	4	4	4	4	6	6
ハイブリッド	268	267	279	279	323	280	329	284
CNG	0	0	0	0	0	0	0	0
ガソリン・軽油	1,320	1,155	1,299	1,146	1,257	1,080	1,238	1,055
計	1,605	1,439	1,599	1,446	1,605	1,385	1,612	1,380

#### (イ) 低公害車導入助成制度

市内事業者へ低公害車を普及させるため、平成15(2003)年度に助成制度を創設しました。本制度を活用して令和6(2024)年度に導入された低公害車は、4台でした。この助成制度の概要は次のとおりです。

#### 低公害車導入助成制度概要

交付対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川崎市内の事業者</li> <li>・ 川崎市内の事業者に自動車を貸与する自動車リース事業者</li> </ul>
助成対象車両	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 天然ガス自動車</li> <li>② ハイブリッド自動車（車両総重量3.5トン超）</li> <li>③ 使用過程のディーゼル車を天然ガス車へ改造した自動車</li> </ul>
交付上限額	<ul style="list-style-type: none"> <li>①、② 最大積載量4トン未満：20万円</li> <li>①、② 最大積載量4トン以上：40万円</li> <li>③ 30万円</li> </ul>

#### (ウ) イベント等の普及啓発

令和6(2024)年度は、市内で実施したイベント等において燃料電池自動車の展示を5回実施しました。